

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3 - モニタリングの実施状況
- 添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5 - まちの課題の変化
- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策
- 添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6 - 参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標					
B. 目標を定量化する指標					
C. 目標値					
D. その他()					

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業						(事業費の金額単位:百万円)			
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	新町線	56	L = 230m	90	L = 230m	工事内容や単価の見直しによる事業費の増加	影響なし		
公園	新町公園改修	25	1,801㎡	-	-	隣接する保育園が、計画区域の幼稚園と統合され新町公園用地まで含めてこども園となったため牧之郷公園(仮称)に変更	影響なし	-	-
公園	牧之郷公園(仮称)	-	-	26	3,000㎡	隣接する保育園が、計画区域の幼稚園と統合され新町公園用地まで含めてこども園となったため牧之郷公園(仮称)に変更	影響なし		
公園	鹿島田公園	25	1,409㎡	26	1,409㎡	工事内容や単価の見直しによる事業費の増加	影響なし		
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設(広場)	駅南広場	120	2,400㎡	121	2,400㎡	工事内容や単価の見直しによる事業費の増加	影響なし		
地域生活基盤施設(広場)	駅西広場	1,071	500㎡	1,011	500㎡	工事内容や単価の見直しによる事業費の減少	影響なし		
地域生活基盤施設(広場)	駅北広場	220	4,060㎡	253	5,100㎡	事業量の見直しによる事業費の増加	影響なし		
地域生活基盤施設(情報板)		14	1基	10	1基	工事内容や単価の見直しによる事業費の減少	影響なし		
地域生活基盤施設(地域防災施設)	駅北広場耐震性貯水槽	-	-	10	100	整備の緊急性を考慮し、新たに追加	影響なし		
高質空間形成施設(カラー舗装)	駅前線	43	L = 337m	27	L = 337m	工事内容や単価の見直しによる事業費の減少	影響なし		
高質空間形成施設(カラー舗装)	駅前中通り線	52	L = 209m	45	L = 209m	工事内容や単価の見直しによる事業費の減少	影響なし		
高質空間形成施設(カラー舗装)	新町坂下線	20	L = 200m	12	L = 200m	工事内容や単価の見直しによる事業費の減少	影響なし		
高次都市施設(人口地盤等)	駅北広場	100	420㎡	-	-	盛土工法への変更により、計画地盤高まで造成を行ったことによる変更	影響なし	-	-
高次都市施設(観光交流センター)	観光案内所	91	120㎡	27	66㎡	事業量の見直しによる事業費の減少	影響なし		
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									(事業費の金額単位:百万円)	
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況		
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み	
地区再開発事業										
バリアフリー環境整備事業										
優良建築物等整備事業										
住宅市街地 総合整備 事業										
街なみ環境整備事業										
住宅地区改良事業等										
都心共同住宅供給事業										
公営住宅等整備										
都市再生住宅等整備										
防災街区整備事業										

1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考) 1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度 2	1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	事後評価		あり	なし	
指標1	駅周辺整備満足度 (利用者アンケートによる駅周辺に対する満足度)	%	平成27年10月28日から11月9日 にかけ、修善寺駅周辺を利用する 2000名(無作為)の市民にアン ケートを配布し、762名の回答 が得られた。アンケート内の「修 善寺駅周辺を整備したことで、 便利な街、にぎわいのある街に なると思いますか」で得られた値 を評価値とする。		2.4	H21	30	H26	モニタリング			モニタリング		
									事後評価	確定 見込み	22.8	事後評価		
指標2	歩行者交通量 (駅周辺の歩行者交通 量)	人	平成27年11月4日及び11月15日 に駅前中通り線と駅前線の交差 点部について、平日、休日の交 通量を計測し、その平均値を評 価値とする。		1,186人/12時間	H21	1,200人/12時間	H26	モニタリング			モニタリング		
									事後評価	確定 見込み	937	事後評価		
指標3	車両混雑解消満足度 (バス・タクシー会社運転 手へのアンケートによる 混雑に対する評価)	%	平成27年11月2日から11月9日 にかけ、修善寺駅を利用するバ ス、タクシー運転手にアンケート を配布し、139名の回答が得ら れた。アンケート内の「修善寺駅 前は混雑していると思います か」で得られた値を評価値とす る。		20.9	H21	5.0	H26	モニタリング			モニタリング		
									事後評価	確定 見込み	17.3	事後評価		

指標	目標達成度 × の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	修善寺駅周辺において、公共施設等の整備を行ったことにより、「便利なまち、にぎわいがあるまち」と感じる市民が2.4%から22.8%まで増加した。しかし、目標値の30%に達成していないため「 × 」とした。	「便利なまち、にぎわいのあるまちになると思いますか」という抽象的な指標であったことと、駅南広場の整備が遅れたことなどにより、目標値達成に影響した。
指標2	従前値と同水準の数値を目指したが、従前値の8割程度の結果にとどまったため「 × 」とした。	指標の成果においては、本市の人口動態や景気の影響などの外的要因を受ける。特に、平日においては地区に近接する修善寺中学校や修善寺南小学校の生徒・児童の通行者が多いが、児童数も約8%の減少傾向にあるとともに、観光客も従前と比較して約24%の減少傾向にあり、目標値達成に大きく影響した。また、駅北広場等の整備により人の流れが分散化したことも影響している。
指標3	修善寺駅前の混雑について、アンケート結果では約17%という結果となり、目標値の5%に達していないものの、従前値に対し3.6%の改善がみられるため、「 × 」とした。	駅南広場の整備が遅れたことにより、広場の利用に慣れていないということも、目標値達成に影響した。

1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
 2 目標達成度の記入方法
 ; 評価値が目標値を上回った場合
 ; 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
 × ; 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考) 1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)	数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度	基準年度		モニタリング	事後評価			
その他の数値指標1	駅周辺の安全度(利用者アンケートによる駅周辺の安全な歩行に対する評価)	%	平成27年10月28日から11月9日にかけて、修善寺駅周辺を利用する2000名(無作為)の市民にアンケートを配布し、762名の回答が得られた。アンケート内の「修善寺駅周辺が安全に歩行できますか」で得られた値を評価値とする。		18.1	H21	モニタリング		平成21年度では約18%が安全と回答しているが、事後評価時では約36%が安全と回答している。歩行者の立場では、当初の比べ公共施設整備による安全性の向上が発揮されているという結果を得たことから、指標3を補完し、安全安心な空間創出への効果を説明するものとした。	-
							事後評価	確定 見込み		
その他の数値指標2	駅周辺の景観(利用者アンケートによる駅周辺の景観に対する評価)	%	平成27年10月28日から11月9日にかけて、修善寺駅周辺を利用する2000名(無作為)の市民にアンケートを配布し、762名の回答が得られた。アンケート内の「修善寺駅周辺の景観は、魅力的に感じますか」で得られた値を評価値とする。		3.1	H21	モニタリング		平成21年度では約3%が「景観が魅力的なまち」と回答しているが、駅前広場をはじめとした公共施設整備や駅舎の整備により、約19%の市民が「景観が魅力的」と回答しており、将来的にまちのにぎわいを創出する要素であることから、指標1及び3を補完し、にぎわい空間の創出や玄関口としての風情の創出を説明するものとした。	-
							事後評価	確定 見込み		
その他の数値指標3	賑わいづくりへの貢献(利用者アンケートによる整備の賑わいづくりへの貢献度に対する評価)	%	平成27年10月28日から11月9日にかけて、修善寺駅周辺を利用する2000名(無作為)の市民にアンケートを配布し、762名の回答が得られた。アンケート内の「駅前広場等の整備が街に賑わいづくりに貢献すると思いますか」で得られた値を評価値とする。		47.8	H21	モニタリング		平成21年度では約47.8%が「そう思う」と回答しているが、事後評価時では49.9%と増加しており、賑わいづくりへの貢献度が評価されていることから、指標2を補完し、賑わい空間の創出を説明するものとした。	-
							事後評価	確定 見込み		

1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・駅西広場の整備により南北の駅前広場が繋がり、駅周辺の利便性や回遊性が高まったことで、これまで駐車場や空き地等になっていた駅北側の低・未利用地への土地利用が促進された。
 ・ユニバーサルデザインを取り入れた整備(歩道の段差解消、点字ブロックの設置等)により、駅利用者や学校、病院、商店街など、駅周辺施設利用者のための安全、安心な空間の創出ができた。
 ・南・北・西の駅前広場整備により、駅利用者の回遊性が高まることにも、駅利用者や通行人に休憩スペースを提供できたことによる「居場所」ができ、滞留性が高まることにも賑わいの創出ができた。
 ・駅北広場への駐車場整備(時間貸・有料)により、駅周辺における自動車利用者の利便性が高まった。
 ・駅周辺整備に合わせ、駅周辺の土地利用が進み、商業施設(店舗等)の増加や建築物の建替え更新が行われ、人々の流れによる賑わいが創出されつつある。
 ・本市の伊豆ペロドロームにおいて、2020年東京オリンピックの自転車競技開催決定を受けて、最寄駅でもある修善寺駅の周辺整備の重要性が大きくなるとともに、オリンピックを契機とした修善寺駅周辺における今後のまちづくりへの期待がさらに高まっている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3 - モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
修善寺駅周辺利用者検討委員会	予定どおり実施した	・平成21年6月30日に修善寺駅周辺整備計画利用者検討委員会を設置 ・実施時期(活動時期) H21年度:1回、平成22年度:8回、平成23年度:3回、 平成24年度:3回、平成25年度:3回 ・活動内容 駅舎整備のアイデアコンテスト実施、駅北広場及び駅南広場の植 栽、景観検討など ・実施結果:修善寺駅舎、駅前広場が市民の意見を組み込んだ整備が行われ た。	委員や委員の所属するNPOなどで、整備した施設の利用方法の提案やイベントなどの参加呼びかけを行っていく。また委員が所属するNPOが中心となり、引き続きまちづくり活動を推進していく。	
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		体制構築に向けた取組内容	まちづくり組織名:組織の概要	
修善寺駅周辺エリア社会実験 (特定非営利活動法人修善寺総合研究所)	予定どおり実施した	・平成25年11月22日から12月2日の11 日間において、 歩きやすい道づくり:車道部を狭め、 路側を拡幅して歩行者空間を確保す る。 美しい街並みづくり:紅葉ポットの設 置、足元緑化、スポット花壇の設置 市民参加:スポット花壇は市民が花 を手植したプランターを猫坂階段へ設 置した。	-	事業により、修善寺駅周辺施設が整備されたことを受け、今後の有効利用を図るべく、イベントの企画立案、参加者の呼びかけ、植栽管理の官民協働の推進の中心的存在として活動していく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
修善寺駅周辺整備事業事後評価庁内検討委員会	建設課、観光課、産業振興課、教育総務課、防災安全室、総合戦略課、都市計画課	平成28年1月28日	都市計画課

添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		その他数値指標1		その他数値指標2		その他数値指標3			
指標名		駅周辺の安全度		駅周辺の景観		賑わいづくりへの貢献			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	〔道路〕新町線	-	駅前広場の整備をはじめ、カラー舗装などにより歩道設置を行ったことで、観光客をはじめとした駅利用者や小学生等に安全な公共空間を創出した。	-	修善寺駅舎や駅前広場をはじめ、周辺道路等の整備を行ったことで、修善寺駅を中心とした景観の魅力が向上した。	-	修善寺駅舎や駅前広場をはじめ、観光案内所等の整備により、ハード面における充実が図られ、駅周辺の賑わいづくりのための土台固めとなった。	-	
	〔公園〕牧之郷公園(仮称)	-							
	〔公園〕鹿島田公園	-							
	〔地域生活基盤施設〕駅西広場	-							
	〔地域生活基盤施設〕駅北広場	-							
	〔地域生活基盤施設〕駅南広場	-							
	〔地域生活基盤施設〕情報板	-							
	〔地域生活基盤施設〕駅北広場耐震性貯水槽	-							
	〔高質空間形成施設〕駅前中通り線	-							
	〔高質空間形成施設〕新町坂下線	-							
	〔高質空間形成施設〕駅前線	-							
提案事業	〔高次都市施設〕観光案内所	-							
	〔地域創造支援事業〕猫坂階段	-							
	〔地域創造支援事業〕牧之郷幼稚園舎撤去	-							
	〔地域創造支援事業〕倉庫	-							
	〔事業活用調査〕事業効果計測調査	-							
〔まちづくり活動推進事業〕利用者検討委員会	-								
関連事業									

指標改善への貢献度

- ・ 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ・ 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ・ 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	利用者検討委員会の活動を継承して、更なるまちの安全対策を検討し実現につなげる。	駅南・北商店街の景観構想を地元と市により検討していくとともに、駅周辺の景観の維持・向上のための市民活動を行う。	修善寺駅を中心として、イベントの開催など、ソフト面での充実を図り、修善寺駅周辺の賑わい創出によるまちの魅力向上を図る。
-------	-----------------------------------------	---------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------

添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1			指標2			指標3		
指標名		駅周辺整備満足度			歩行者交通量			車両混雑解消満足度		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	[道路]新町線	-	駅前整備の遅れの影響があるものの、修善寺駅周辺の都市基盤整備の完了に合わせてまちの賑わいづくりを生み出すまでは至らなかった。しかし2020年開催のオリンピックのための駅周辺整備に向けた初期整備として効果を発揮した。	1	-	修善寺中学校・修善寺南小学校の生徒・児童数の減少とともに、修善寺駅を利用した観光客が減少しており、通行量が減少したと同時に、駅北広場整備等により駅周辺の人の流れが分散化した。		-	駅北広場や市道の整備により、駅南広場の車両混雑を感じる市民はわずかに少なくなったが、通勤通学時の駅周辺の混雑解消までには至らなかった。しかし、公共施設整備の初期整備として、中心市街地の交通まちづくりの足掛かりとなった。	
	[公園]牧之郷公園(仮称)	-								
	[公園]鹿島田公園	-								
	[地域生活基盤施設] 駅西広場	-								
	[地域生活基盤施設] 駅北広場	-								
	[地域生活基盤施設] 駅南広場	-								
	[地域生活基盤施設] 情報板	-								
	[地域生活基盤施設] 駅北広場耐震性貯水槽	-								
	[高質空間形成施設] 駅前中通り線	-								
	[高質空間形成施設] 新町坂下線	-								
提案事業	[高質空間形成施設] 駅前線	-								
	[高次都市施設] 観光案内所	-								
	[地域創造支援事業] 猫坂階段	-								
	[地域創造支援事業] 牧之郷幼稚園舎撤去	-								
	[地域創造支援事業] 倉庫	-								
関連事業	[事業活用調査] 事業効果計測調査	-								
	[まちづくり活動推進事業] 利用者検討委員会	-								
		-								

目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

要因の分類

- 分類：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	まちの賑わいを生み出すために、商店街の活性化が必要であるという意見も多く、今後商店街を中心としたまちづくり活動を進める。	観光客増加を図るため、修善寺駅を中心とした観光地やイベントの情報発信を強化するとともに、修善寺駅周辺において、回遊性と滞留性をもたらす仕組みを構築する。	駅南北口の車両進入出路を明確にするとともに、必要に応じ関係機関と協議し、交差点改良を進める。また現在行われているボランティア活動による通勤通学時の安全活動を継続していく。
------------------	--------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
修善寺駅周辺整備事業事後評価庁内検討委員会	建設課、観光課、産業振興課、教育総務課、防災安全室、総合戦略課、都市計画課	平成28年1月28日	都市計画課

添付様式5 - まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
駅周辺の魅力を高め、観光客の滞留時間延長を図る必要がある。	駅南・北広場の整備をはじめ、駅西広場の整備により、駅の南北を連絡させたことや、観光案内所の設置により、地域住民や観光客に利用しやすいものとなった。	まちの賑わいを生み出すための地域商業の活性化が望まれている。	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前商店街を中心とした回遊性、滞留性のある魅力あるまちづくりを進める必要がある。 ・駐車場や駐輪場整備のほか、わかりやすいサインの設置など、自動車、自転車利用に関する更なる整備が必要である。 ・伊豆(修善寺)のアデンティティを示す景観まちづくりの推進が必要である。 ・歩行者や交通弱者にやさしいまちづくりの推進を図る必要がある。 ・公民連携によるソフト面の充実を図ることが必要である。
地域に貢献できる中心市街地を目指し、社会的ニーズを汲み取ることで、生活のしやすさという側面からも中心市街地を再編していく必要がある。	修善寺駅を中心とした駅前広場や周辺道路等の整備が進んだことで、地域住民や観光客に利用しやすいまちとなった。	依然として、自動車利用のニーズが高く、周辺道路の混雑解消が望まれている。	
自らのアイデンティティを見つめなおし、強くアピールする景観形成は、地域に対する誇りを高めるとともに、社会的要請事項でもある。	修善寺駅の駅前広場整備をはじめ、観光案内所や情報板を設置することで、修善寺駅の景観を高めるとともに、伊豆の玄関口としての機能を有するものとなった。	駅舎や駅前広場などの公共空間だけでなく、駅周辺の街並み形成が望まれている。	
高齢者や車椅子利用者の歩行環境を改善させる必要がある。	駅周辺道路の歩道をカラー舗装等により明確化することで、高齢者や車椅子利用者を含めた歩行者の安全性が確保された。	車優先社会の遺物として、依然、歩行者や交通弱者に対しての配慮が不足している。	
これらの課題解決に向け、大正期に整備された社会基盤の再整備と地域住民や商業者を抱きこんだまちづくりを進めていく必要がある。	修善寺駅周辺の公共施設整備が行われたことにより、ハード面の課題については解消された。	更なるソフト面の強化を図るための、新たな駅周辺のまちづくり活動が必要である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- B欄に記入します。

添付様式5 - 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるために 行う方策	公民協働によるまちづくりの推進	地域住民や商業者が主体となったまちづくりの機運を高めていくとともに、観光客も市民も気軽に集えるまちかどの賑わい空間を創出する活動に対し、行政が支援をしていく。併せて空き店舗や低・未利用地(駐車場等)の改善と新たな活用を図るための検討を進める。	・NPO法人や各種団体が行う新たなまちづくり活動(イベント等)の提案・実施への支援 ・駅前空間の再生を持続するための組織づくりの推進

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	まちのにぎわいの創出	駅前商店街を中心として、空家・空き店舗の活用と駅西側広場を活用した各種イベント等のソフト面での充実を図り、にぎわいの創出を図る。	・駅西広場活用事業 ・空き店舗の活用促進事業(登録斡旋制度) ・創業者への支援事業(補助金等)
	伊豆の玄関口にふさわしい駅周辺の景観形成	都市基盤施設の整備を契機として、駅周辺における良好な街並み景観の形成に向けた取り組みを推進する。	・景観計画の策定 ・街並み景観の維持・統一を図るための地区計画等の導入検討 ・景観に配慮したリフォームに対する補助金制度の創設
	修善寺駅周辺の歩行環境の整備による回遊性の向上	修善寺駅周辺における歩道等の歩行空間のネットワークを強化するとともに、休憩場所などの整備により安全性や快適性の向上を図る。	・市道の既設歩道の整備 ・市道のコミュニティ道路化の検討 ・修善寺駅と狩野川を結ぶ歩道整備 ・狩野川沿いの歩道整備
	駅前広場の利便性の向上	整備した駅前広場の利便性のさらなる向上を図る。	・駅周辺のサイン計画 ・自転車駐車場の整備

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

様式5 - の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4 -)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4 -)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5 -)を再確認した。

添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

- ・観光客減少の抑制を図るために、更なる観光情報の発信と内容の充実を図るほか、駅前商店街の魅力向上と活性化を目指す。
- ・中心市街地の交通の円滑化及び渋滞の解消を図る。
- ・2020年東京五輪の自転車競技開催を契機として、自転車を活用したブランドづくりやまちづくりを推進する。(サイクルメッカ伊豆の推進)

添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2 - 1、2 - 2 に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2 - 1、2 - 2 から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が「又は×」の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	駅周辺整備満足度	%	2.4	H21	30	H	確定	22.8		あり	-	-	-
							見込み			なし			
指標2	歩行者交通量	人	1,186人/12時間	H21	1,200人/12時間	H	確定	937		あり	-	-	-
							見込み			なし			
指標3	車両混雑解消満足度	%	20.9	H21	5.0	H	確定	17.3		あり	-	-	-
							見込み			なし			
指標4				H		H	確定			あり			
							見込み			なし			
指標5				H		H	確定			あり			
							見込み			なし			
その他の数値指標1	駅周辺の安全度	%	18.1	H21			確定	36.0			-	-	-
							見込み						
その他の数値指標2	駅周辺の景観	%	3.1	H21			確定	19.4			-	-	-
							見込み						
その他の数値指標3	賑わいづくりへの貢献	%	47.8	H21			確定	49.9					
							見込み						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		・交通量調査等の観測による指標設定は、観測時の集計とともに、社会情勢等を踏まえた状況予測を行う必要がある。
	うまくいかなかった点	伊豆市の人口減少や観光客の減少を踏まえた数値目標を設定すべきだった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	公共整備を行うことによって、安心安全やまちの景観など確実に効果を発揮するものとなった。	・事業実施による効果が現れ、かつ容易に計測できる指標を設定することで、毎年効果を検証しながら事業を進めることができる。
	うまくいかなかった点	修善寺駅周辺の公共施設整備が、まちの賑わいに直結したものではないため、事業との整合性に難があった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	指標に対する計測方法として住民アンケートを実施したが、自由意見欄を設けたことにより、アンケート項目ではわからない住民の考えを得ることができた。	住民アンケートに自由意見欄を設けることで、今後まちづくりを進めるに当たっての新たな課題と解決となるヒントを得ることができる。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6 - 参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画の活用予定

-

・事後評価を予定している地区の名称

-

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成28年2月10日～ 平成28年2月23日	平成28年2月10日～ 平成28年2月23日	伊豆市建設部都市計画課宛メール又は意見提出様式を都市計画課へ提出	伊豆市建設部都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	-	-	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	コミュニティFMでの放送及び伊豆市都市計画課、総務課、各支所にて閲覧	平成28年2月10日～ 平成28年2月23日	平成28年2月10日～ 平成28年2月23日		

住民の意見	<p>事後評価原案公示前に行った「修善寺駅周辺地区のまちづくりに関するアンケート調査」(平成27年10月28日から11月9日)にて出された意見の概要は以下のとおり。</p> <p>「景観」 ・駅舎自体清潔感があり大変良いが、周辺に風情が感じられない。 「交通」 ・駅周辺は歩行者にとって歩きやすくなった ・駅周辺の交通渋滞を解決してほしい 「駅前広場」 ・駅南へシンボル、モニュメントを設置したらどうか ・駅西の活用を今後考えるべきである 「にぎわい」 ・商業施設の活性化 ・イベント等の開催 ・商業やホテルの誘致 「魅力」 ・温泉街のイメージを図る 「安全・安心」 ・街路灯、防犯灯の設置 ・駅周辺の交通規制が必要</p>
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田 典子(あきた のりこ) 千葉大学大学院園芸学研究科准教授 ・遠藤 護(えんどう まもる) 伊豆市都市計画審議会会長 ・山田 健次(やまだ けんじ) 特定非営利活動法人修善寺総合研究所理事長 	第1回(事前説明) 平成27年10月9日 第2回 平成28年2月26日	伊豆市建設部都市計画課	修善寺駅周辺地区都市再生整備計画事業評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員					

審議事項 1	委員会の意見
方法書	<ul style="list-style-type: none"> ・方法書に従って事後評価が適正に実施されたことが確認された。
成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> 指標1「駅周辺整備満足度」 ・歩車道の段差解消などユニバーサルデザインを取り入れたことは、駅周辺整備満足度の度合いを図る上で評価に値する。 指標2「駅周辺の歩行者交通量」 ・伊豆市の人口や観光客数、学童数の減少による影響や、南北がつながったことで人の流れが分散化した影響もあるが、カラー舗装による歩車道の明確な分離を行ったことで、歩行者の安全度が増した。 指標3「車両混雑解消満足度」 ・駅南広場と駅北広場の利用形態の明確化(バス・タクシー; 駅南、一般車; 駅北)にすることや、駅前線、駅前中通線の交通量分散を図る対策を図る必要がある。
事後評価手続き等にかかる審議	<ul style="list-style-type: none"> 実施過程の評価 「住民参加のプロセスの実施状況」 ・住民を巻き込んだ新たな組織作りを行い、駅周辺のまちづくりについて検討をしていただきたい。 「持続的なまちづくり体制の構築状況」について ・商店街や住民を巻き込んで、駅周辺のまちづくり活動を引き続き実施していただきたい。
効果発現要因の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業によりユニバーサルデザインを組み込んだ整備を行ったことは、大いに評価できるし、今後も取り組んでいただきたい。 ・小中学生や高校生に対し、駅周辺整備における意見を伺うとともに、今後のまちづくりについて役立てるのがよい。
事後評価原案の公表の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・原案公表は妥当であると認められた。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺を整備したことで、駅周辺の商業施設の増加、建築物の建替え更新に寄与した。
事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・事後評価の手続きは妥当であると確認された。

審議事項 1		委員会の意見
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> 「まちのにぎわいの創出」 ・鹿島田公園は、人が良く集まっており、整備による効果は出ている。 ・駅前広場の利便性の向上 ・自転車を活用したまちづくりを推進するため、新たな駐輪場の整備を行う必要がある。 「伊豆の玄関口にふさわしい駅周辺の景観形成」 ・大正期に整備された歴史的価値を活かしたまちづくりを進めていくのか、2020年に開催されるオリンピックに向けた整備を進めていくべきかを新たに考えていく必要がある。 「修善寺駅周辺の歩行環境の整備による回遊性の向上 ・駅から狩野川へ誘導するための方策を考えてもらいたい。 「公民協働によるまちづくりの推進」 ・空き店舗、空き駐車場の改善が必要であり、それを検討する組織づくりを行う必要がある。 ・修善寺駅の「次の100年」のためのまちづくりを行ってもらいたい。
	フォローアップ	・整備効果は確実にあると思われるが、必要があれば効果の発現が最も期待される時期(オリンピック前など)に行ってみたらどうか。
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のまちづくり方策は妥当であると確認された。 ・本事業により整備されたことは、次につなげる意味でも評価に値するものであると判断された。
その他	・特になし	

1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
-	-	-
-	-	-

有識者の意見	-
--------	---